



NEWS LETTER



★12月4日～10日は人権週間ですね。当会は12月と、プライド月間の6月に、ニュースレターを発行しています。
★前作『アライになりたいーわたしが出会ったLGBTQ+の人たち』刊行から4年。9月25日、小島あゆみさんの待ちに待った新刊『トランスジェンダー、クィア、アライ、仲間たちの声』(かもがわ出版)が上梓されました。すべては「知ることからはじまる」…SNSで受けたトランスジェンダー排除発言への違和感をきっかけに、トランスジェンダーやクィアの人たちのことをもっと知りたい、と7名の当時者の声(+4名のアライの声)を聞いた小島さんの渾身の1冊です。書評はこちら→ [BOOK | Magazine for LGBTQ+Ally - PRIDE JAPAN](#)

★全国5か所で行われている「結婚の自由をすべての人に」訴訟。順調に「違憲」判決が続いている中、最後に始まった東京2次訴訟で、11月28日、憲法で同性に結婚を認めていないのは「合憲」とするまさかの判決が出され、マリフォー (Marriage For All Japan) のメンバーや同性婚裁判を見守る私たち、世の中に大きな衝撃が走りました。
同性婚に関心のある方は、①裁判を傍聴する ②マリフォーのWEBサイトから学ぶ ③マリフォーに寄付をすることで応援できますよ！くじけずにがんばっていきましょう！

MARRIAGE
FOR
ALL
JAPAN

三重、九州（福岡）、岡山、宮城、東京（トランスマーチ）、奈良、和歌山…私たちアライの会のメンバーも、日本全国を飛び回り、虹色のフラッグやピンク＆ブルーのフラッグを掲げて参加し、各地の仲間との親睦を深めました。LGBTフレンドリーな仲間がいる、というのは本当に心強い、幸せなことです。これからも連帯していきましょう！

2025年7月～11月まで、当会は以下の5つの講座と、自主上映会（12月）を開催しました。ご参加くださいありがとうございました。

性と生き方の多様性講座
「LGBTQ+とフェミニズム」
2025年7月12日(土)
14時～16時（開場13時半）
調布市文化会館たづくり 映像シアター
後日配信あり 参加費無料
講師 清水晶子先生
フェミニスト。
東京大学総合文化研究科教授。
専門はフェミニズム、クィア理論。

↑LGBTと切っても切れないフェミニズムのお話をとてもわかりやすく話してくださいました、大人気の清水先生の講座。このときの受講者の一人が、先生が登壇されていた海外での学会で先生と出会い歓喜され記念写真を当会に送ってくれました♡

性と生き方の多様性講座
「私たちは、ここにいます～市井の当事者 等身大の言葉～」
2025年8月9日(土)
14時～16時（開場13時半）
調布市文化会館たづくり8F 映像シアター
後日配信あり 参加費無料
講師 るーさん
ユニさん 真理子さん

↑8月は3人の当事者の方が、それぞれに異なるご自身の生き方のお話をしてくださいました。とても学びの多い、終始アットホームな雰囲気の講座となりました。

性と生き方の多様性講座
「看護教育とLGBTQ+」
2025年9月13日(土)
14時～16時（開場13時半）
調布市文化会館たづくり8F 映像シアター
後日配信あり 参加費無料
講師 吉田安子先生
神奈川県立保健福祉大学

↑看護教育のプロの吉田先生の講座は、「文化的能力と謙虚さ」という新鮮な切り口で、性的マイノリティだけではなく、少数者や弱者といった全ての立場の方に必要な視点でした。

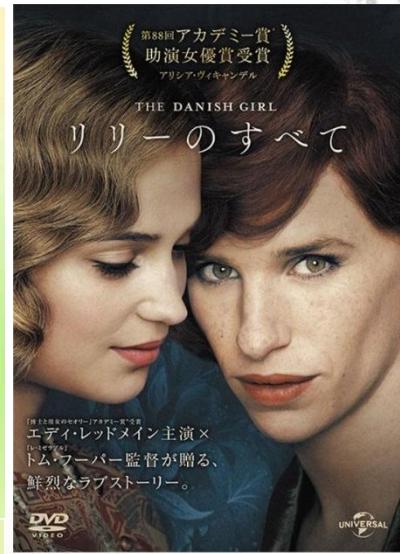
性と生き方の多様性講座
「LGBTuber あすぽんのアライ・ライフ」
2025年10月12日(日)
14時～16時（開場13時半）
調布市文化会館たづくり 8F映像シアター
後日配信あり 参加費無料
講師 あすぽんさん
Ally LGBTuber 心理カウンセラー

↑自分に相談されなかったとしても、誰かが相談者の力になってくれるようにと願つて活動されている、とのあすぽんさんの一言は皆の胸を打ちました。

性と生き方の多様性講座
「LGBTQ+フレンドリーな企業とは？～中小企業診断士と一緒に考える ダイバーシティ経営の第一歩～」
2025年11月15日(土)
14時～16時（開場13時半）
調布市文化会館たづくり 8F映像シアター
講師 中小企業診断士 藤井 篤宜氏

どなたでも参加できます 後日配信あり

↑ビジネスサイドのお話は実に客観的で、非の打ち所がない講座でした。藤井先生のように元気溌剌とした中小企業診断士さんがLGBT業界についてくださることで、私たちの未来は明るい！幸運な出会いでした。



←
も皆アライエスさんとの合同企画でした。鑑賞後は初の試みでしたが盛会となりました。
どちらは

↑12月は毎年恒例の自主上映会でした。とてもシリアスな内容と、それに反比例した絵画のように美しい映像は多くの参加者の涙を誘いました。

リレーエッセイ 夕焼け空とゆうきさん

私の職場、助産院の西向きの部屋からは、こぢんまりした空が見えます。夕方、仕事が一段落つき、色鮮やかな夕焼けを目にしたときに、ふと気づくと私が考えているのは、友人のゆうきさんのことです。

ゆうきさんは私たちの大切な仲間です。DSDs※1当事者として、2025年1月の当会講座※2にご登壇していただいたので、ご記憶にある方も多いと思います。

ゆうきさんはDSDs当事者故の、身体の辛い症状を複数抱えていらっしゃり、その長期的な治療のために北陸から都内に転居されて来ました。

辛い症状を抱え、入退院を繰り返しながらもとても社交的で、フットワークが軽いゆうきさんは、私たちアライの会の講座やSHGにじいろお話会をはじめ、様々なLGBT関連のイベントに熱心にお顔を出されていました。いつもニコニコされていて、知的で、誰に対しても敬語を話されていて、私はゆうきさんの不機嫌な表情や怒った顔を見たことが一度もありませんでした。私たちは皆、ゆうきさんことを尊敬していて、大好きでした。

今年の4月下旬、それまで毎日更新されていたゆうきさんのSNSが突然止まりました。LINEもメールも電話も、一切連絡が取れなくなりました。誰よりも律儀なゆうきさんですから、そんなことはあり得ないことです。

6月、私は理事仲間の小島あゆみさんと共に、名刺の住所を頼りにひとり暮らしのゆうきさんの集合住宅の一室を訪ね、不在を確認しました。「中で倒れていたらどうしよう」と、その足で警察署に相談に行きました。すると、「ゆうきさんの事は、京都のご実家がご存じです」という情報がその日のうちに得られました。しかし、肝心のゆうきさんの安否に関しては、「個人情報なので教えられません」とのことでした。

その後も、ゆうきさんと連絡が取れなくなったことを心配する仲間からの声は都内や北陸から寄せられ続け、8月、私は意を決して、再度、警察に掛け合う手はずを整えました。「ゆうきさんの安否を教えてくださるよう、京都のご両親に伝えてください」と、10数人分の連名の嘆願書を作成したのです。

しかし担当職員さんの答えは「警察は京都のご家族にその嘆願書を渡すことはできません。そして安否を教えられるのは本人の肉親か、弁護士だけです」というものでした。

それでは、と、当時ゆうきさんが関わっていた、戸籍の記載に関する裁判を担当されていた仲岡しゅん弁護士さんを頼ることにしました。ところが「ご本人のご実家が不許可である以上、警察署での安否確認はできませんでした」と、肩を落とされている内容の文面がしゅん先生から届きました。

最後の頼みの綱の弁護士さんでも無理だったのです。

ご家族がそれほどまでに教えたくないこと…それはおそらく、ゆうきさんの身の上に、最悪のことが起きたということなのでしょう。

↑ 10年以上前、ゆうきさんが30歳の時、自身の身体…DSDsの事実を初めてご両親に打ち明けたところ、当時、妹さんに縁談があったため、内緒にせよとご両親から言われたという件を、小島さんの書籍※3（ゆうきさんへのインタビューをもとに書かれています）から知りました。そしてそれを機にゆうきさんは京都のご実家とは疎遠になったということも。

それらを鑑みると、考えることを避けようとしてもどうしても、ある一つの残酷な結論に行き当たります。

LGBTQ+当事者※4は、家族からその生きた証を隠されなくてはいけない存在なのか？…ということです。

ゆうきさんは、京都のご実家のご子息ですが、不惑を過ぎた立派な大人で、そして私たちのかけがえのない仲間です。

ゆうきさんを訪ねた際、集合住宅のポストに、ゆうきさんの不測の事態に対応したであろうご家族に、「私共は怪しい者ではない」という事を知らせるために、各々の名刺をメモ書きと共に残しました。私は自分の助産院の名刺を、小島さんは著書『アライになりたい』の著者の名刺を。警察にも行き、弁護士さんも頼りました。できることは全部しました。

夕日に染まりながら、様々な思いがぐるぐる巡ります。

私たち、多くの友人たちの胸の中で、人知れず何十回も何百回も繰り返されたであろう、「ゆうきさん、今どこで何しているの？」も、「連絡待ってるよ」も、「ありがとう」も、「つらかったね」も、「会いたいよ」も、全ての言葉はそれぞれの胸の中だけでぼんやり、くるくると空回りするのみです。

心に穴が開くとは、おそらくこういう事を指すのでしょうか。

そしてゆうきさんを思う、私たち多くの友人たちの胸には、おそらく同じような穴が開いたままです。

夕焼け空に、私たちの胸の中の、悲しみに彩られた無数の穴が儚く浮かんでいます。そして同じ場所にゆうきさんの面影が、いつもと変わらないあの優しい笑顔があります。浮かんでは消えるゆうきさんの笑顔と共に、どこへも持っていきようのない気持ちが、美しい朱色を背負ってこれ以上ないほど重苦しく胸に迫るのでした。

（棚木めぐみ）

※1 DSDsとは、性分化疾患…染色体、生殖腺、もしくは解剖学的に性の発達が先天的に非定型的である状態（Wikipediaより）

※2 1月13日「生まれについての、身体の多様性～性分化疾患を生きて～」

※3 『トランスジェンダー、クィア、アライ、仲間たちの声』かもがわ出版

※4 DSDs当事者はLGBTQ+当事者とイコールとは限りません。ですが

ゆうきさんはLGBTQ+コミュニティの一員として熱心に活動され、多くの仲間がいらっしゃいましたので、ここではそのように表現します。

【お願い】ゆうきさんの安否についてご存じの方がいらっしゃいましたら当会までご一報ください。 ally2021@chofulgbt.com



【会員募集中】当事者の方やアライ、アライになりたい方、ジェンダーやセクシュアリティに関心のある方、仲間になりませんか？

※このレターの印刷代は調布市の「えんがわファンド」より助成されています。



2025年12月25日発行 NEWS LETTER vol.8 師走号
(一社)調布LGBT&アライの会 <https://chofulgbt.com/>
事務局/〒182-0011東京都調布市深大寺北町4-13-51
マザリーズ助産院内 棚木めぐみ 090-3535-9227